

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

1. 本年度の重点目標

生徒の健やかな育ちを保障する学校づくり

2. 本年度の経営方針

- ◇ 生徒の自己肯定感・自己有用感を高める。
- ◇ 生徒が主体的に学習に取り組むように授業改善を図る。
- ◇ 生徒会や学級・学年での活動に生徒一人一人が主体的に取り組むよう工夫する。
- ◇ 進路探究学習（キャリア教育）の継続・発展的実践を推進する。
- ◇ 個々の生徒理解を基調とした生徒指導（いじめ、不登校対応を含む）を推進する。
- ◇ 校内に教師の自己研鑽を基盤とした研修の風確立する。

3. 自己評価とその結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営	生徒の健やかな育ちを保障する学校づくりができたか。	A	肯定的な回答が100%であった。生徒の「学校生活が楽しい」「充実している」といった質問でも肯定的な回答がどちらも94%を超えている。また、保護者の「お子さんは、毎日楽しそうに登校している」という質問では81%が肯定的な回答をしており、どちらも昨年度より肯定的な回答が増えている。今年度は行事や評価評定（含テスト）が大きく変化した。今後も、生徒の成長につながる行事の精選を行っていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見					
学習指導	生徒が主体的に学習に取り組むように授業改善を図ることができたか。	A	今年度は肯定的な回答が100%となった。生徒アンケートでは「主体的に学習」することに対する回答は昨年度と大きく変動はなかった。生徒の主体的な学習に関わる質問に対する肯定的な回答は60%～80%ほどとなっている。「見通しをもって学習に取り組んでいる」か、という質問の肯定的な回答が6%上昇しているので、授業や日常のなかで計画をすることが身に付いてきていると考えられる。今後も見通しをもった学習を意識して行うことが重要である。	A	A
	進路探究学習（キャリア教育）の継続・発展的実践を推進することができたか。	A	96%が肯定的な回答をしている。今年度は校外での職業体験を再開することができた。保護者アンケートにおいても、昨年度よりもAの割合が11%増加しており、今後も、地域との連携をとりながら、校外での体験・見学を行うなど、よ	A	A

			り充実した活動になるようにしていきたい。		
	ICT（クロームブックやVODなど）を適切に活用した授業や取組を行うことができたか。	A	肯定的な回答が86%となり、特にAの割合が59%と大きく上昇している。生徒アンケートにおいても、ICTの活用に関わる回答で肯定的な回答が98%を超えていることから、教師も生徒もICTを活用した授業に意欲的に取り組んでいると考えられる。今後も、授業への活用を検討できるような研修などを通して、生徒の学習が充実させる必要がある。	A	A
学校関係者評価 委員による意見					

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	生徒の自己肯定感・自己有用感を高めることができたか。	A	こちらは100%が肯定的な回答となった。生徒も「自分や周りの良さを認めあうことができている」か、という質問に95%が肯定的な回答をしている。学習の場面だけでなく、日常、行事など様々な場面で生徒の自己肯定感・有用感を高めることができていると考えられる。今後も様々な場面を通して生徒と関わり、自己肯定感・有用感を高めていきたい。	A	A
	個々の生徒理解を基調とした生徒指導（いじめ、不登校対応を含む）を推進することができたか。	A	昨年度に続き、今年度も肯定的な回答が100%となった。教職員の意識もさらに高まっていると思われる。今後も何か起きる前から動くということではなく、予防的生徒指導の重要性を職員で共通理解する必要がある。	A	A
	生徒会や学級・学年での活動に生徒一人一人が主体的に取り組むことができたか。	A	昨年度より3%上昇して、96%が肯定的な回答となった。今年度は行事の精選が行われ、学校祭のスタイルも大きく変化した。学年・学級での取組や生徒会の活動なども生徒が主体となって考えて活動する場面が見られるように、取り組み工夫をした結果と考えられる。今後も生徒が主体的に活動できるような仕掛けや工夫をしていきたい。	A	A
学校関係者評価 委員による意見					

教育環境整備	校内に教師の自己研修を基盤とした研修の気風を確立することができたか。	A	今年度も昨年度と同じく肯定的な回答が 87%となった。今年度は研修会を通して、生徒が何事にも主体的に取り組むことができるような工夫が、この結果につながっていると考えられる。今後も研修を行い、教師の自己研修の気風を確立しながら、生徒の学習の充実を図ることが重要である。	A	A
学校関係者評価 委員による意見					

4. 自己評価における特記事項

・ICTの使用は今後も増えることが予想されるので、より効果的にICTの活用ができるような研修や工夫が必要だと考える。 ・ボトムアップの考え方が定着するよう今後も今年度のような講演会や研修などが重要である。	
学校関係者評価 委員による意見	

達成状況	以下の数値を基本として判定する。 A・・・教職員アンケートA、Bあわせて85%以上 B・・・教職員アンケートA、Bあわせて84%から70% C・・・教職員アンケートA、Bあわせて69%から50% D・・・教職員アンケートA、Bあわせて49%以下
------	---

学校関係者評価	A, B, Cの3段階で評価していただく。 A・・・よくあてはまる、十分達成されている。 B・・・だいたいあてはまる、おおむね十分である。 C・・・あてはまらない、不十分である。
---------	---